

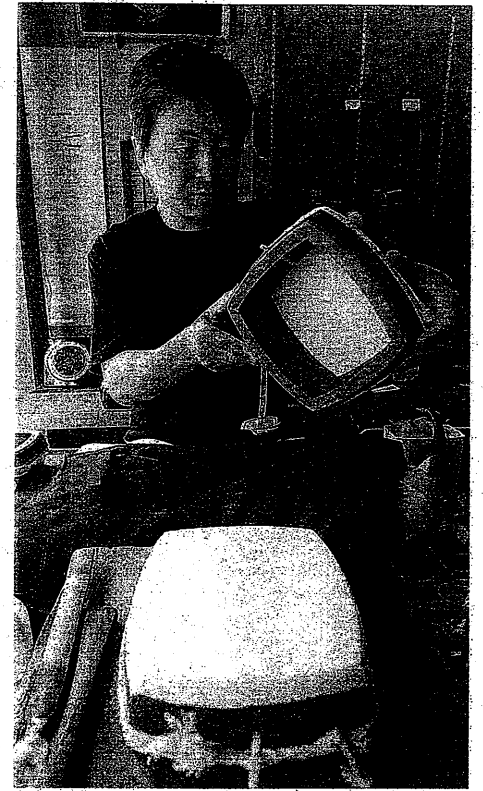
# 「商店街再生へネットワーク」

佐賀市・錦通り商店街会長

## 三根抱一さん(53) 佐賀市

# 夢 百景

30



三味線・猫皮を張る三根さん。県内に皮張り職人は数少なく、高い専門性で顧客の支持を受けている。

# アーケード撤去契機に

佐賀市の旧長崎街道沿いにある錦通りの商店街。100軒ほどの通りに7つの商店が並び、西端は呉服町名店街につながる。7月初旬、老朽化した同名店街のアーケード

花飾の付けるなど、外観の統一感を出すことから着手。今年1月には勉強会「商人(あきんど)塾」を始めた。

コンサルタント会社社長を講師に招いた塾の方針は、自助努力による繁盛店づくり。個店の充実と売上増が最優先課題で、イベント

が取り外され、通り全体に太陽の光が差し込むようになった。錦通りの商店街会長の三根抱一さん(53)は「今こそ商店街の横のつながりを強めるチャンス」。街を区切るアーケードがなくなった通りをまじまじと見とめた。

□

によるにきわい創出を軸とした従来の活性化事業とは一線を画すものだった。6月まで講義や実地指導を受け、レインサウトや品ぞろえの見直しに取組んだ。

□

佐賀市では数年前、JR佐賀

「個店としての充実を目指す有志が集まり、情報を交換しながら活動を点から線に広げていく。その動きを、面として商店街同士の連携につなげていければ」。三根さんが世話人となり、6月には「佐賀市中心商店街ネットワーク会議」がスタートした。初会合には6商店街の商店主ら約25人が参加。団体名から「中心」を外し、広く佐賀市内から参加を募ることも検討している。目指すのはオリジナルの強い個店の経営者が団結すること。既存の枠を超え、新たな商店街のかたちを構築していく。

1983(大正12)年創業の老舗和楽器店「三根楽器店」の3代目。三味線や琴などを販売するほか、三味線の皮張りや修理も手がけ、演奏家や邦楽マンの公演やまな要請に応えてきた。大学を卒業して店を継ぎ、約30年。和楽器だけを扱う店は真内には少なく、高い技術と専門性に自信をもち、よほいえ、空き店舗の増加による中心市街地の空洞化にはずっと不安を感じてきた。2006年に呉服町名店街のスーパー「恋乃梅」が開店し、通りを歩く買い物客が減少。昨年8月には呉服町名店街協同組合が自己破産した。

「花見や新年会を企画するものが役割だった」と三根会長はかつて約5年。結束を強めつつと努めたが、店主間には世代の差もあり、「商店街としてまとまりきれていない」と三根は不満を抱えていた。そんな状況が変わり始めたのは2年前(前年)から。30代、40代の後継ぎが戻り、商店街を活性化しようと「ご機嫌が高まってきた。佐賀城のみなまのいかに合わせて店頭に

## 商店街組織 解散目立つ

【佐賀市の商店街】県中小企業団体中央会によると、近年、県内で協同組合や振興組合などの組織を解散する商店街が目立っている。2004年に「佐賀市商店街連盟」(昨年6月解散)に所属していた商店街は20団体(協同組合7、振興組合3、任意団体10)。それが、この5年間で少なくとも8団体が解散したという。最近では、昨年8月に呉服町名店街協同組合が自

### 余話・余録

己破産して解散、現在老朽化したアーケードの撤去と舗装工事が行われている。中心市街地の商店街で組織し、共同で銀天夜市などの催事を開催していた「銀天通りの商店街振興組合」も昨年末に解散した。当然ながら、組合がなくなっても営業を継続している商店は数多い。三根さんらのように個店経営者の新たな連携を模索する動きもある。

文・江島貴之、写真・中島一貴